意見交換

【松本憲治高知県安芸市長】

先ほど参議院の岡田国土交通委員長さんがご挨拶されまして、その通りやってくれと思いながら聞き入っておりました。

３点述べさせていただきます。１点目は、ミッシングリンクの解消です。15年後には西日本に大震災が起こる。私どもは、地震対策で高速道路の整備、命の道の整備なくして県民・市民・町村民の命は守れない。深く深くその辺のところを、これから建設促進に向けて頑張っていかなければならないと思っています。そういう意味におきまして、予算の獲得をぜひお願いしたい。

２点目は、大規模災害に強い道路ネットワークの整備と広域的な危機管理体制です。高知県では全市町村長が、大規模災害に対する防災体制、住民の安全・安心を支える地方整備局及び事務所等の出先機関の存続を求める決議をやります。それは南海地震が来るからです。今のまま広域行政、こういうことを言うのは県に失礼になるかもわかりませんが、東北の津波におきまして県の力がどれぐらいであったかということを市町村長は既に見抜いています。そういう意味におきまして、地方整備局、そしてそれに関係する事務所の存続を訴えます。その他の国の地方分権を伴うものは、やれる部分はやったらいいと思います。しかし、命に関する国の責務、国の果たす役割は明確にしてもらいたいということで、存続を提案するものであります。

松本憲治高知県安芸市長

最後に、こういう大会に来て、国土交通省の職員がいないことであります。全国の市町村長、一番住民の声を代表するみんながここに来ています。なぜ民主党政権はそういうことをしないのですか。県の職員の言うことを聞いたって、市町村長の声を聞かないと住民の声はわからないでしょう。こういう大会を開くときも整備局が来られるように民主党政権においても変えていただくように、お願いしておきます。

『道休誠一郎衆議院議員』

宮崎県はご案内の通りミッシングリンクの一部でございます。私も政治の世界に出るまでは宮崎の地で事業をしながら、本当に政治は地方が見えていないという意識を持って、先の選挙で辛くも比例で通ったわけですけれども、先ほど国交省の職員が来ていないというお話がございました。私どもは議員として、現場の状況をしっかりと役所に伝える、そして役所の人間にも現場に行っていただく。現場でしっかりとした地域づくりを起こすようなことを我々は今考えて、それをもとに動いております。国交省の方々も現場に赴き、皆さんと一緒に話をしながら、しっかりと国づくり、ミッシングリンクを解消するために頑張っていくつもりでおります。民主党はなかなか政策の目指すところを皆様にうまく伝え切れていないところもございます。しかしながら、しっかりと我々の視点を見据えてやっていくつもりです。

道休誠一郎衆議院議員（民主党）

『衛藤征士郎衆議院議員』

前田武志国土交通大臣に会いましたときに真っ先に申し上げたことは、今の松本安芸市長の発言そのものだったのです。私は大分県の出身ですが、例えば東九州高速道路建設大会に大臣、副大臣、政務官が出ていない、国土交通省九州整備局長、道路部長も来ない、どういうことだと、こういうことを申し上げたのです。はっきり言って、自民・公明政権時代は、必ず国交省本省から幹部が来ました。そして大会の生の声をよく聞いて、それをしっかり道路整備に反映させる、こういうことだったのです。だから、前田大臣にはそのようにやってほしいと。わかったという大臣のお言葉でありましたが、残念ながらそれがまだ実現されていないというのが現実であります。私は、本大会に、本来ならば、国交省だけではなく、この厳しい状況の中にあって、反対意見はあるかもしれないが、財務省主計局も、ここに来て、そしてこの現実の生の声を聞いてくれというのが私の考え方でもあります。

先ほど、地方整備局あるいは経済局、農政局等の整理には断じて反対だという意見がありましたが、私もこれは反対であります。東北震災で国は10年で23兆円の予算を投入いたします。いかにして効率よくスピードアップしてやるか、これに尽きると思うのですが、そのときに、国の機関を一部県に移行するという話が出ており、大変心配しています。いかにして速やかに東北地方の復旧・復興をやるかということでありますが、そのためにも東北の国交省の整備局等々国の機関をしっかり建て直しをする、重点化する、そして地方の政府の第一線である市町村としっかり連携してやる、これが大事ではないかと思っております。

衛藤征士郎衆議院議員（無所属）

【武田勝玄大阪府河南町長】

今のご意見について、私からも要望なり、あるいは私の知っていることを意見として申し上げます。

関西広域連合が国の出先を受けるがごとく、そういうムードになっているやに聞きますが、我々基礎自治体にそういう議論は何もありません。基礎自治体の議論なくしてそういうことはしてはならないし、あってはならないと思います。私は、今回、命の道が非常に有効な形で証明された震災ではないかと思います。東北、それから台風12号、15号、我々が昔からB／Cに命の係数を掛けてくれと言ってきた、まさにそれがここに来て証明された。私はこれは国難だと思います。今度予想されています三連動地震、あるいはそれ以上の大地震にかかわる災害がもしあれば、先ほど議論がありました広域連合、それから道州制のフレームをはるかに越えてしまうわけでございます。この国難を乗り切る、すなわち命を守る道路網というのは国防なんですよ。国防と言うと、非常にひんしゅくを買うかもしれませんが、これは国民の命と財産を守る、まさに国防なのです。広域連合であっても、道州制であっても、国防の論議はされておりません。国防は国です。外交・教育も国です。これは国家でしっかりと取り組んでもらわなければいけません。ですから、国の出先を地方に、いわゆる地域主権あるいは地方分権の名のもとに、国家公務員を単純に数合わせのごとく減らす施策は断じて許してはならないと思います。

武田勝玄大阪府河南町長

『姫井由美子参議院議員』

中国ブロックも、瀬戸内海側と日本海側というと本当に道路が整備されていないということで、数々の陳情を承っております。

先ほどのご意見ですけれども、私たち民主党は、基礎自治体を最も大切にしたいと思っていることは間違いありません。しかし、過渡期というものもあります。今回も、前田武志国土交通大臣は、大臣の中でも、日本の国土のこと、あるいは自分の持ち場の国土交通省のことをしっかり勉強されて、自分のことができる、最も安定した、安心できる大臣の一人だと思っております。その大臣にも、今日は、国土交通省ではなく、政治家が矢面に立って受けていきたいという心構えで今日は参りました。皆さんの意見を、今日はしっかりと受けとめさせていただきまして、今日は仲間も来ておりますので、反映してみたいと思っております。

姫井由美子参議院議員（民主党）

『金田勝年衆議院議員』

今までのご指摘はそのとおりだと思っております。一時期、政権交代の後、「コンクリートから人へ」という言葉がひとり歩きをしました。しかし、人の最も大切な命の道はコンクリートでできているということは当たり前のことであります。皆さんの思いはそのままっしっかりとこの国の将来に、自信を持ってこの国の経済を語るときにも、あるいは日本の隅々までその思いをしっかりと実現するためにも、ぜひとも必要なのがインフラの整備であって、道路はその最たるものであります。皆さんが一番望んでいるものは道路であるということは私もわかっている。だからこそ、皆さんのその切実な思いを、この日比谷公会堂も現場の１つだと。だから、国交省の方も、あるいはそのＯＢの方も、みんなここで話を聞く、できるだけ多くの人が話を聞く、それが政治主導であって、それ以外が政治主導であるかのような限定をして、ルートを一本化して、こんなぎまはあり得ない。こういうことをしっかりと今の政治に対して物を言っていかなければいけない。私は田舎者でありますが、そういう反省を迫りながら、今後とも皆さんと頑張る決意であります。

金田勝年衆議院議員（自民党）

【更谷慈禧奈良県十津川村長】

このたびの台風12号、全国の皆様から大変な励ましをいただきました。実は３カ月前の今日から雨が降り始めまして、４～５日間降り続きました。怖いぐらいに降りました。そんな中で山が崩れ、２６０ｈａの山が深層崩壊しました。また、土砂ダムも４カ所ありました。そのダムがまだ脅威で避難しているという状況です。そして、道路は北東で30カ所、うちの村だけです。林道を入れると、70カ所。すべて入れると大方２００カ所が寸断いたしまして、まさに袋のネズミであります。また、水、電気、通信も全てずたずたになりました。そんな中で、役場と村民との話し合いも、一方的な防災無線だけで、役場にいても、村民の生命あるいは安否といったものは10日間ほとんどできない状況でした。

更谷慈禧奈良県十津川村長

そんな中で、特に国土交通省のリエゾンの職員の方がヘリで６日にうちの村に来てくれました。その時に、この人たちは何をしてくれるんだろうと。リエゾンの機動課長は、何が欲しいか、何が足りないか、そんなことを克明に聞いていただきました。明くる日には国交省のリエゾンの人が15名になり、６日には前田武志国土交通大臣が村にやってきていただき、こんこんと話を聞いてくれました。おかげで、国交省さんだけで50数名の方が村の中で、廊下で寝てくれました。そして、知事を通じて自衛隊の皆さん２５０名からの人が、これも体育館に泊まり込んで。あるいは警察。両方とも組織的なチーム。この場をお借りしまして感謝申し上げます。

先ほどからあった近畿地方整備局ほか国の出先機関を取りやめるというようなお話になっているようですが、我々奈良県の中でも南部の方は大変な被害を受けた。そんな状況の中で誰がこの支援をしてくれるのか。まさに国土を守るのは国交省ではないのか、あるいは国ではないのか。私は、村民の命を守るという観点からすると、絶対そういうことがあっては村民の命は守れない、そう思っております。こんなことはぜひともやめていただきたい。

『空本誠喜衆議院議員』

皆さんのおっしゃるとおり、出先機関は廃止・縮小してはならない。私は自分の選挙区におきまして国交省の役人の皆さんと今議論を交わしています。そのときに一番悲しいことは何かといいますと、国交省の道路部長さんが道を歩いていないことであります。歩いていらっしゃる方も多少います。まずは首長の皆さんから、しっかりと整備局の道路部長、そしてその上に立つ方々に、しっかりと道を歩けと。それによって、どれを先につくらなければならないか、そして、この道が一番必要なんだと、そういったことを強く訴えていただきたい。ぜひとも首長の皆さん、官僚にしっかりと物申す。私たちはそれを強く承りますので、よろしくお願いします。

空本誠喜衆議院議員（民主党）

『外山斎参議院議員』

私の地元宮崎県も、皆さんと同じように道が全然つながっていない選挙区であります。今、いろいろ首長さんから、地方整備局を残していただいているところで、地方整備局、特に３・11以降の評価を私たちは見直きなければならないのではないかと思っています。先ほど来いろいろな方々からお話がありますが、３・11で国の出先機関が果たした役割は非常に大きかったわけであります。それを評価せずにずっと議論が続いているということで、今、多くの民主党国会議員が、この流れで出先機関改革をやられたらたまらないということで、いろいろ意見を言わせていただいているところであります。九州で言えば九州知事会、そして関西の広域連合が手を挙げているわけでありますけれども、この権限移譲に関して、全くイメージしかないのです。どういう形で受けていくというのが知事会でも全く決まっていない現状であります。そのような受け皿さえも全く決まっていない中でこれをやることに対して私たちは大変危機感を覚えておりますので、今日皆さん方からいただいた意見をしっかりと私どもの会議で伝えさせていただきたいと思います。

外山斎参議院議員（民主党）

【持木一茂石川県能登町長】

今までいろいろ話が出ておりますように、地方整備局の存続についてぜひお願いしたいと思います。なぜこの時期にそういう話が出てくるのかなということであります。冒頭にも綿貫会長からお話がありました。東日本大震災の折には、「くしの歯作戦」作戦ということで東北地方整備局がすごい活躍を見せたということがあります。これも国の直轄の機関だからこそ、そして命令系統が一本化されているからこそスピード感を持って対応できた結果だと思います。私どもの石川県も４年半前に能登半島沖地震を経験しております。その折に各市・町が被災を受けたわけですが、能登と県都金沢をつなぎます能登半島有料道路というのが地震により約８カ所寸断されまして、通行止めになりました。それも北陸地方整備局、県、国交省のテック・フォースのおかげで１カ月足らずで迂回路が復旧し、通行可能になりました。これもやはり北陸地方整備局やテック・フォースが現場を知っていればこそできたのではないかと思います。常に現場近くを監視していただいている地方整備局があればこそ、そういった素早い対